

2023年度水俣フォーラム 事業報告

2023 年度はコロナの影響をほぼ受けず久々に活動できた年となった。もっとも大きな力を注いだ事業は水俣・福岡展であり、入場者 2 万人という高い目標を立て、さまざまな個人や団体の参加・協力を得ながら開催準備を進めた。179 名のボランティアスタッフ、協賛 28 団体など、相応の広がりを生み出したものの、入場者数は 13,602 人であり目標を達することはできず、事業収支も厳しいものとなった。一方、この人数は東京展の 3 万人に次ぐものであり、来場者や報道機関、水俣病の関係者からは高い評価を受けた。立命館大学生存学研究所と共催した水俣病記念講演会は、京都での初めて開催であったが、満席の来場者を得たことで 2024 年度の水俣・京都展に向け、大いに希望の持てる機会にできた。SNS での発信は、新たな関心を持つ層の入口となることを想定して始めたが、今年度においてはそうした場になったとは言えず、ネットの利用については再考が必要と考えている。また、2026 年の東京展の会場決定は大きな課題であるが、来年度に持ち越すこととなった。2024 年度は東京で 5 年ぶりの通常開催となる水俣病記念講演会、12 月の京都展、図録の刊行などが大きな事業となるが、会員会友の力を得ながら一つひとつの活動に臨みたい。

1. 水俣病公式確認 60 年記念事業

- ①展示物の一部更新

2. 水俣展

- ①福岡展 10 月 7 日～11 月 14 日、福岡アジア美術館、計 13,602 人
- ②京都展 開催を決定（2024 年 12 月 7 日～22 日、みやこめっせ）
- ③東京展 2026 年の会場を調査

3. 講演会開催（いずれもオンラインを併用）

- ①記念講演会 第 19 回の開催
(4 月 29 日、京都・立命館大学朱雀キャンパス、729 人、うち来場 478 人)
第 20 回の開催準備（2024 年 4 月 29 日、東京・有楽町マリオン朝日ホール）
第 21 回の会場確保（2025 年 4 月 26 日、くまもと森都心プラザ）
- ②水俣セミナー 2 回開催、2・3 月、新宿・常円寺、154 人（うち来場 83 人）

4. 機関誌発行

- ①水俣フォーラムNEWS 編集を進行し、2024 年 7 月に発行予定、4000 部

5. インターネットによる発信

- ①各種 SNS での定期発信（催し案内、「水俣コラム」の定期連載）

6. その他の事業

- ①水俣病ライブラリーの整理 複数冊所蔵書籍の整理
- ②市川敏明さんを偲ぶ会 2月、東京・早稲田奉仕園スコットホールギャラリー、45人

7. 水俣病関連書籍の出版編集協力

- ①石牟礼道子エッセー集

8. 総会・理事会・運営委員会

- ①総会 6月、出席者38名、書面表決者645名（正会員863名）
- ②理事会・運営委員会 合同運営委員会7回、出席率92.2%

9. 事務所機能向上のための取り組み・運営基盤整備

- ①事務所の書棚とファイル棚の一部を整備

10. 助成、補助金等

- ①環境再生保全機構地球環境基金助成金、500万、3年計画の3年目
「オンラインと対面型の併用による水俣病の普及啓発と人材育成」
[申請したものの選に漏れたもの] SDGs 岩佐賞 300万～1000万

理事	実川悠太	理事長、常勤	69歳	西東京市
	東郷佳朗	副理事長、神奈川大学准教授（法社会学）	56歳	横浜市
	郡山リエ	副理事長、元・福祉施設職員	75歳	厚木市
	瀬戸口裕子	都立王子総合高校教員	49歳	練馬区
	渡辺純規	事務局非常勤、元・都立高校教員	68歳	川崎市
	石井由樹子	事務局非常勤、森のようちえん葉山「もりのわ」代表	50歳	横須賀市
	渡辺 一	医学書院社員	51歳	新宿区
	服部直明	事務局長、常勤	57歳	川崎市
	（なお、理事は運営委員を兼務することとする）			
運営委員	豊野堯	月刊バレーボール編集長	47歳	荒川区
	木全由規	留学コーディネーター	53歳	八王子市
	高橋豊	元・中学校教員	64歳	志木市
	大石貴裕	ビル管理会社社員	50歳	中野区
	澤村実希	日本点字図書館職員	45歳	新宿区
	宮田久美	主婦	41歳	名古屋市
	大八木勉	事務局非常勤、日本映画大学職員	47歳	世田谷区
	梁取優太	常勤	29歳	さいたま市